北蝦夷圖說

總說部

特
132

官準

安政乙卯孟夏新鐫

北蝦夷圖說 全四冊

一名銅柱餘錄

北蝦夷地總說　島名　地勢　産物　交易
南方初島人物　飲食　居家　産業　冠婚喪祭
ヲロッコ夷　スメレンクル夷　附錄

特 132

北蝦夷圖說序

琴瑟鐘鼓音之美者也而樂歌之事不作則不能致其美也三牲魚腊味之尤者也而饗食之事不起則不能致其尤也人材之於天下亦然矣雖有非常之人苟不當有為之時則不能致其才之尤美也是世之所以為人材

TOKYO SCHOOL OF FOREIGN LANGUAGES LIBRARY

不及古也蓋天之生人今猶古則其賦材性豈有古今之別唯其無事是以無用焉往時當文化之始國家將有為於蝦夷吏人有閻宮氏倫宗者奉命單行入北蝦夷居二年探其窮北之壤進至滿州之一府接清官吏語國家威信而歸於是北陬之地始得詳焉夫北蝦夷之地緯度雖纔在五十度內外以自古荒漠窈廓故風氣蓋與彼卧兒狼德殆相似是以先是不唯邦人不窮其奥雖西洋夷之貪遠者未有詳之者也然閻宮氏奮然獨犯艱險焦心思遂得其要領其功可謂偉矣北之夫是班牙之閣龍

探米利幹。葡萄芽之墨牙蘭一周地球。其剛
毅堅忍濟事於萬里之外之村。豈敢讓之哉。
當時間宮氏所述。有北蝦夷圖說四卷。東韃
紀行三卷。足以知其功績之一斑。嗚呼。昇平
二百年之後。一旦將有為。則一小吏猶有若
人矣。人材果豈有古今之別哉。由是觀之。世

將大有為也。則人材之出。千歲之下。猶千歲
之上。斷可知矣。但使之如琴瑟鐘鼓之更奏迭
和。以致音之美。三牲魚腊之加籩加豆。以致
味之尤。乃其在其人而已矣。頃友人大枝某
未請序於北蝦夷圖說。會余有深感於間
宮氏。因記其言以為序云。

嘉永七年甲寅十月

江戸

益堂鈴木善教識

北蝦夷圖說卷之一

凡例

一凡倫宗演話とするところ古ハ悉く是を識しといふべし其人素よりも多言なるゆゑ且貞廉ゆゑ下鈍なる其蘊意を探り盡ひ尽あるもざれハ猶遺漏とするところの多少こゝろざ[illegible]べき歟

一倫宗の性言苟もせざる者なれば其自見分せざるのことハ総て演話とするなり故小蹶如のなるも又少なるゝゆゑ

一凡物蝦夷島ふひとゝきものハ悉く其圖說を省て是を載せず

一凡地名物名言語の類夷の称呼とする所ハ悉く片假名を以て

是と記し分ち易からしむ

一南方より奥地に至るまで其序次初に人物を出して次に居家産業を記し後冠婚葬祭に終る是を以て夷情事態を概知せしめんに故に其生平の現事に至りて奇事あるごとにはしばらく載せることなし

一凡此島に属せるところのまとはヲロツコ○スメレンクルのおのおのとなれども皆此篇中に編むものにて其俗異なりとなくとも其地同じき故ちに他満州のごとくに至りては別に紀行と編て是を載せず

一凡此篇中北蝦夷地の字を用ふる事稀にして此島を称し或

ハ古称を用ひてカラフトと称せるはもて其名本蝦夷地に混ぜて文意の錯乱せむことを恐る是所謂私記の如くにして其事は瞭然たるこを知らせるの一端なり

一凡其物の形状文辞に盡しがたき物ハ其大槩を圖せて是を出ひとなくども本より寫生せて其形を得るに論なく其物を見たる事ぞなるざるべ悉く是業公の能なるべしと云と

北蝦夷圖說巻之一

常陸　間宮倫宗口述
備中　秦　貞廉　編

北蝦夷地（古称カラフト島）

一此島ハ蝦夷島北地ソウヤ（地名）の北十三里の海を隔て北極地を出ること凡四十六度より五十一度乃間ニ在りて其地南北ニ長く（凡二百餘里）東西ニ短し（凡十五六里より狭き所ハ七八里ばかりなる）其周廻凡五百餘里南ハ蝦夷島より對し東ハ大洋をうけ西北を東韃（とうだつ）靼州ノ地方ニ臨める一大島なり其人物蝦夷島のごとき者を島を三分ノ一ニ居し其他を悉くヲロツコ○スメレ

ンクルと称する異俗の夷是を居ル

島名

一此島を称してカラフトといふこと其来由を知らべ林蔵此島を巡ってゑる所島夷に質問ひしに島夷又其来由を知るものなく只蝦夷島の称呼ばかりなりと答へ奥地の夷ふるてしてカラフトと称呼あるばかりを辨知ってる者なしさればこれ此島の本名をあらざるを明なり

一奥地の夷自称してシルンアイノといふサンタン夷島を指ってシルンモシリと称ひ是を以て考る時はシルン此島の本名なるが如し然るに林蔵東韃に入て諸夷を接するの間

同船の夷韃夷を對して相語ると聞る韃夷ハ自称してキムンアイノと称し船夷ハ自ら呼で我をシルンアイノなりといひて夷言に山を称してキムと云ウンを集居の意アイノを夷の通称なれど是を山居の夷と譯ひ是を以て顧てシルンアイノの称を按ずるに且其唇舌發音の間を熟察ひるをモシリウノアイノハ畧語なるべし夷言島を称してモシリといひ則島居の夷と称ひるべしサンタン夷の如きハ島夷の言語を解ひるなるべし只其聲音の口に發ひるやうこれみを聞てシルンアイノハ居島なりと思ひシルンモシリと以て称呼ひるなるべし是亦島名となるべき者をあらべ

一林藏東韃の假府に至りて官吏と問答の法以て言此島に及び
々々に官吏徳楞嘎山の四字と書きて是と與ふ（乾隆板九邊圖中徳楞嘎山なる者と載せ）是蓋し東韃の夷字を製きて島に名付る所にして
島名素より然るものにあらざるべきなれば我　邦呼でカラフ
トとなし北蝦夷地にて称せるが如し島の本名ともいべきなり
一拂郎擦版海上圖中サカリインと題せる島あり其島大抵カ
ラフト島の所在に置畫せるに其地名と書せるもの大に称
林藏の圖中に載せるところにて合せり蓋し此島を称せるに
る一是に依て林藏島より東韃に入る乃間此称呼あるの
所と鑿求せしに東韃夷マンゴー河の源と指してサカリイ

ンヲウラ（ヲウラえ江の称）と称し其河源曾西亞の境界中より發して
て徳楞哩名と經其水悉く此島に當突して海に入る爰を以
て曾西亞の属（卯年エトロフ島に来りて乱妨となしたる賊夷）皆此島を呼でサカリ
インと称し是拂郎擦版圖中の名依て起る所なり
同國版別に編むところの地理書に此島と題してエレウテ
ボウセと名づくエレウテは蠻語と譯せば物と閉塞せる
の意なりボウセは島と澤なり是其島マンゴー河口に在て其
流と閉塞せる如きと見てかくる名と下せるなるべし以上二
名とも或は河名と島名に轉ず用ひ又は地形の所在を以て
名つけ已に思ふさまにして題名せるものにて猶韃夷の製字

下名ゆゑの如し

一　島夷の詞東韃の書にいふ拂郎察の版に及ぶといへども カラフトと称せるゆゑを見びカラフトの語まゝ蝦夷島の言語にあらざれど竊に量るに蓋し本邦の人名つくるとき ゆゑなるべし往時松前家蝦夷島と撫せるの初め此島の夷山且夷と共にソウヤに渡来し錦玉烟管の種々と持来て獺狐狸鹿の皮に交易せしと云其時必韃服或は異製の衣と服し来れり故近代と雖ども島夷の所謂支配人番人なるも服を蝦夷島と小異なれ所謂唐人松前方言人をいふ云ふ数十年来呼習せるフトと称し の呼で唐人と称し終に島名と成りしのなるも以上数説を揚るといへども總て

島名とするべきものなし　玄已六月

命あるて北蝦夷地の字を以て此島に名づけらる其地蝦夷島と隔るゆゑ僅に十三里許其住夷も亦大抵蝦夷島に異ふゆゑ其奥地異俗夷有と雖ども其行支化業少異あるのみにして同じく是無政の夷壤なれば豈蝦夷の名を免るゆゑを得むやこれば蝦夷島の北島なるべし故に北蝦夷地こゝ未然の島名とも称しつべし幾百年来無名の島なりしも終に有名の島となれり

地勢部

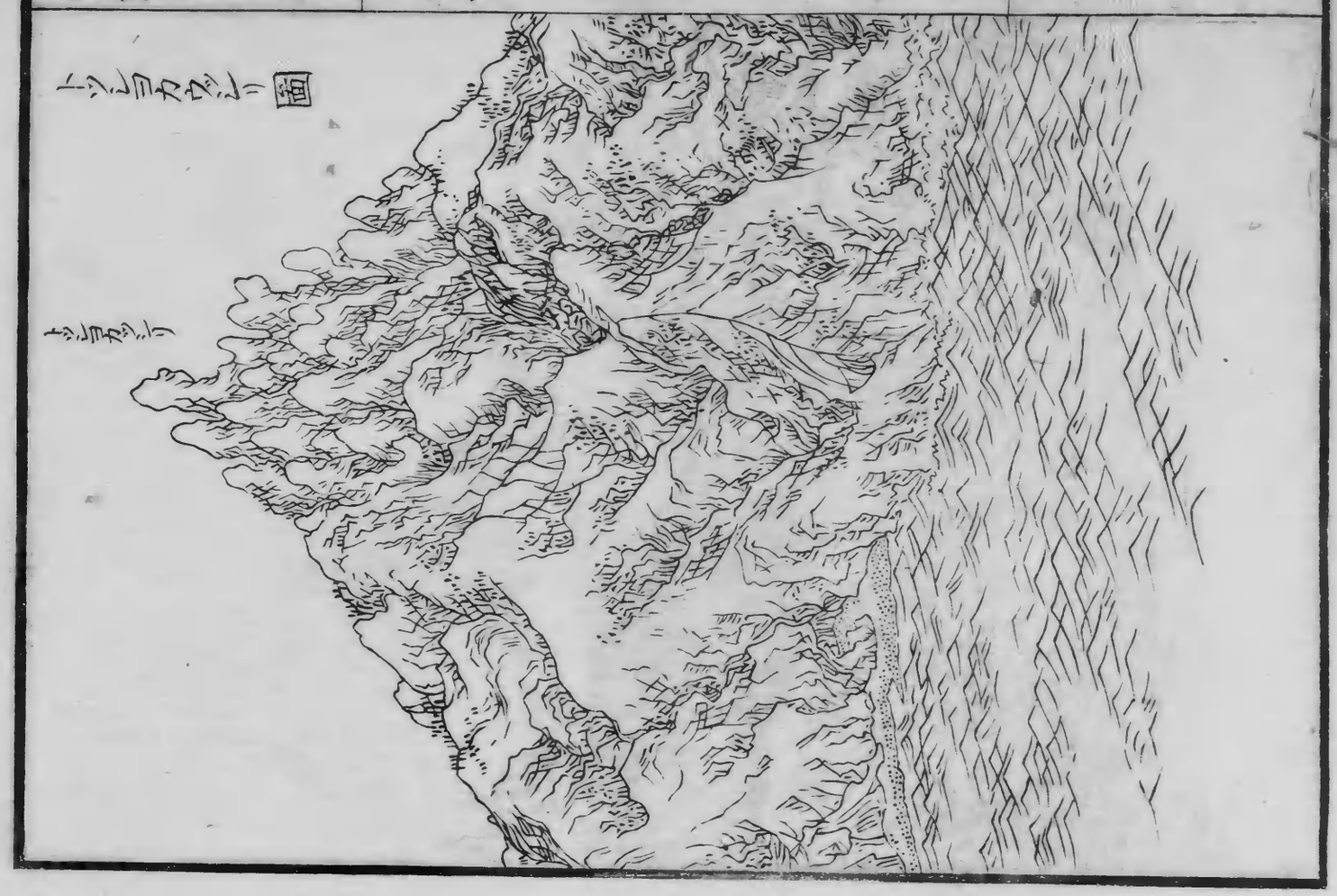
一　此島の地勢南方凡百五六十里の間東はタライカ西はリョ十イ島至るの間を指し

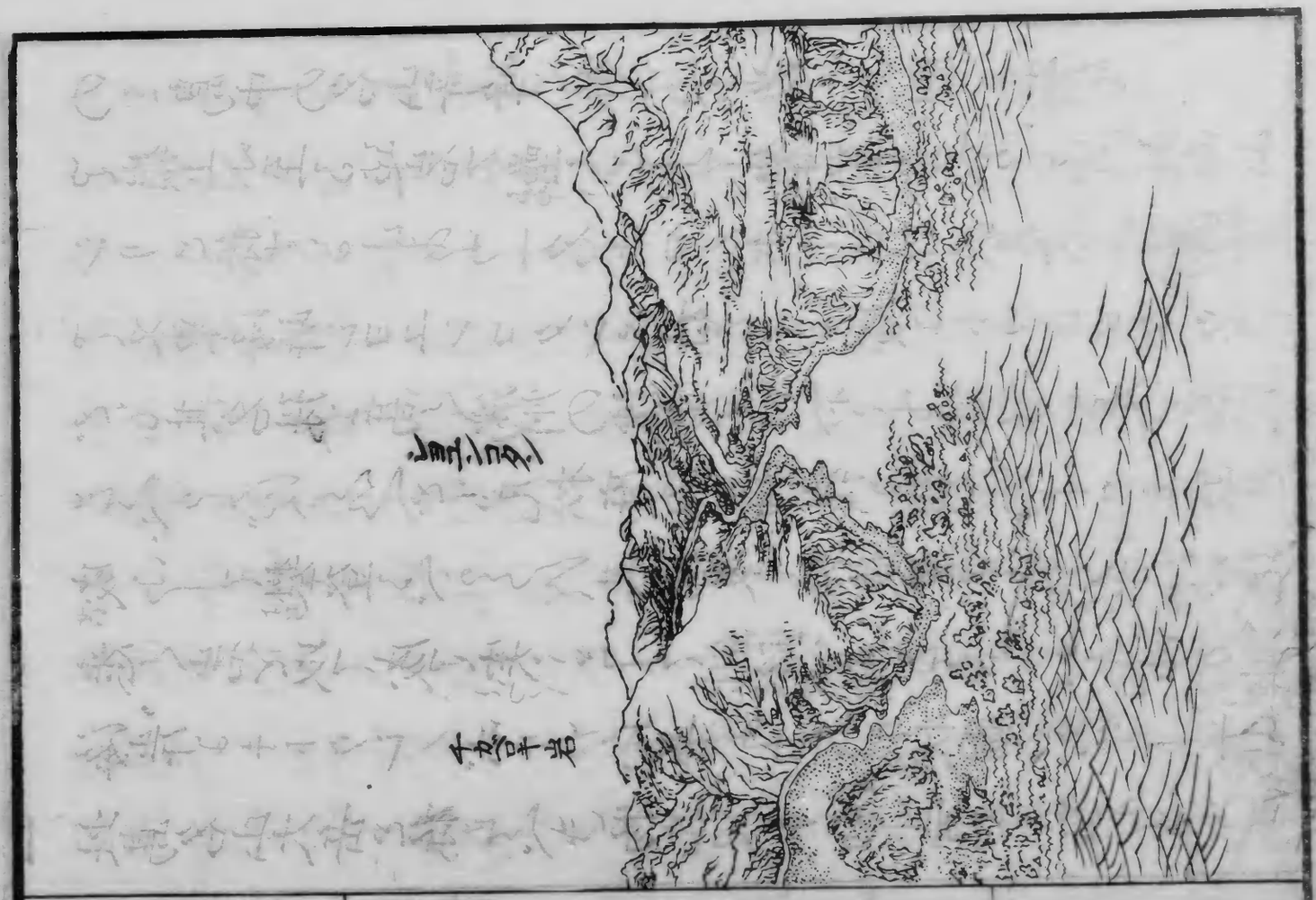
て南方と云
て是を倣ふ総て蝦夷島の地味は異なるものとなし
も高山大岳と称すべき者なく又嶮阻艱難の地も稀なり只
小山丘岡の類多くして厳ふべきは堪たり其間平麁曠野あ
りと雖ども鬚澤湖沼多くして地味至て悪し
一此島至る處草木茂生せざる所なし故に其地勢鬱々
て陰地なりと雖ども其土も悪く乾燥なりて水氣少くして
地上総て草木の落葉幾年とかく落重りて朽積といへども
水氣なき故なり土化せざるゆへ故に其地味猶更に潤澤
なる氣なくして悪く塵土なるゆ其上を行時は趾陷りて脚を没
せらるに至る所多し島夷等時として山野に宿して火を燃て

て棄置く時は其火塵土に燃着し遷延して山林に焼羅し雨
あるとこれども其火大抵消滅せざるなく十里二十里の間
樹木悉く焼敗ることあり と云 林蔵長年の夏初て此島を巡る時ヨツケナイに至
り須山火あり二十日数 といふ處に至て猶炎々たり其間里程凡十里許の間樹木悉
く焼敗し同年冬再巡して十一月廿六日トンナイに帰り至
らんとせるの道数度野宿せしことあり此須既に積雪
ふして寒威凌きがたけれども火を燃し暖をとる其火塵土に燃えつき大抵茂林の内に入りて終夜火
を焚て是を見るに丈餘の外に迂延し故
に朝に火を消滅して發趾したりと云
一前條に云ふ如く塵土なる故に草木根を結ぶとは云へども堅實
なるにあらざるゆへ其地素より極北の離島なれば時々
大風の為に一山二山の巨木悉く倒伏せるなりと云

キトウシノホリ

オカラニ


圖ニシテカムニシ
ニシカムニシ



一此島名山大岳と称ちてべき物なきと初ふ云如くなれども西海岸よりキトウレノボリなる者あり其形状圖のごとく一山悉く岩と以て成て突々として剣鋒と称ちてるつ如く四方削成ふ〜て攀登べうべう其高度も林藏量て来らざれバ記ちべうべうべうども凡松府の白神嶺よ類ひべーと云然ども其名殊に高く渺州の諸夷といへども皆能く是と知れて又東海峡ショユンコタンと称ちる處よトツシヨカウウシリと称する山あり一名ホロノボリと称ひ是亦其麓ヨ嶺上ふ至る迫岩石壘〜として攀登るべうべう此両山のと島中の名山奇峰と称ちてべ〜故よ其圖と出て

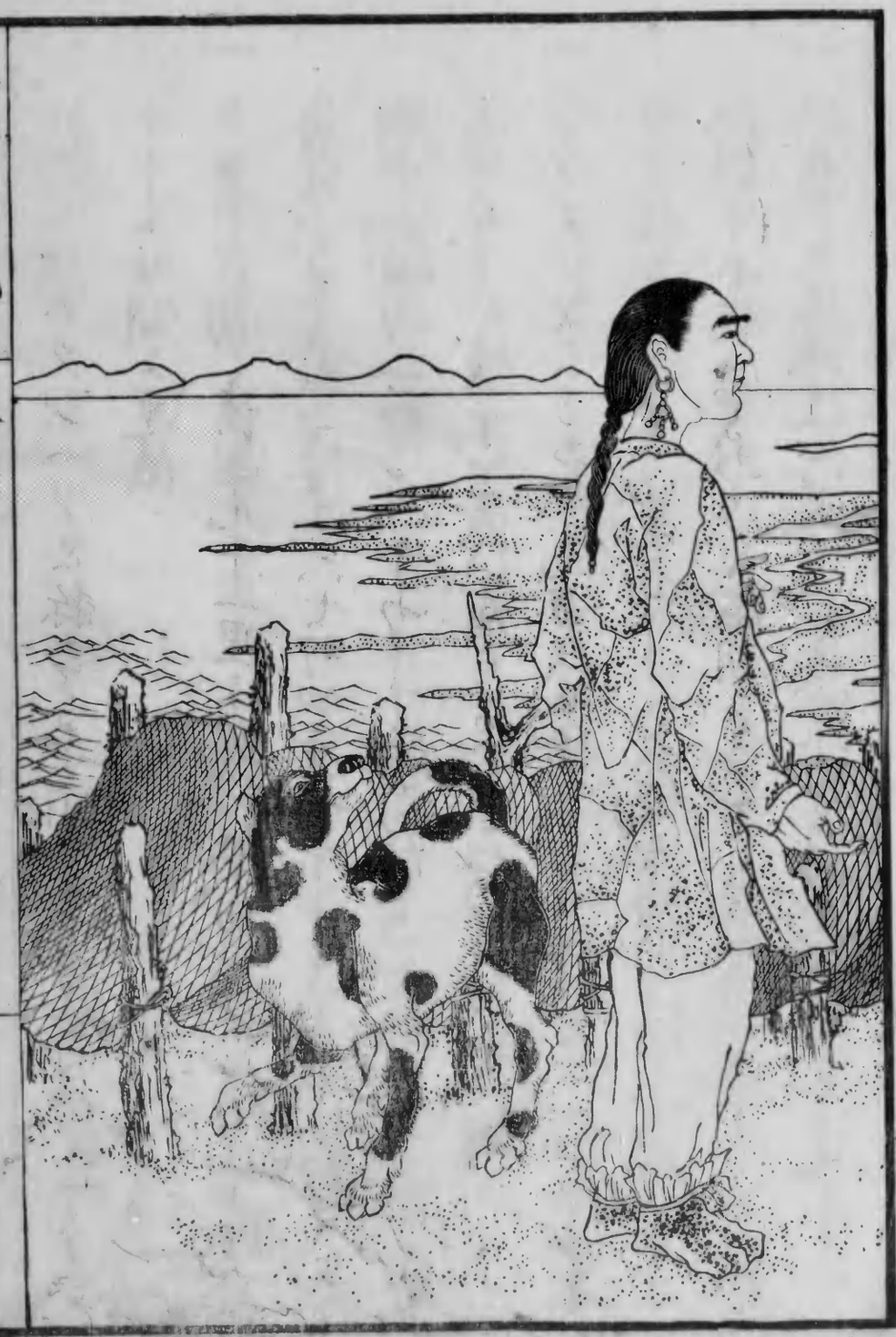
一シラヌシと云るあり〜凡百六十里許西海峡の奥地よワンライと称ちる所あり夫よりて凡一里半許北の方ニイトンバウシと称ちる所よりて奥地の方ハ高山絶てあく只陵夷乃小山のと往〜ふ散在ひ夫よりノテト地名の島よ至てハ又小山もなく實よ豁然たる曠野なり然れども其地味ハ南方よ異てあとなく海岸の沙地よあらざれよりハ大抵塵土ふきく水氣なく燥乾の地多〜

一此島中河流あるあり〜ふ少うべうべと〜ども大河と称ちてべき巨流と称ちてべ〜然れども其河口僅ふ四五十間あるのと其

源トモーと称する北流川（是亦島中の一巨流なり林蔵見ざるところなれども亦バスメレンクル夷の言ところを以て後に附ひ）の頭より發して南流數里トワッカと称する所に到て分流して一たナイフプト川と称する其流絶て濁水あり遅流なり源より河口に至るの間西岸絶て四五里の平原あり岩崖斬岸の類なし故に其河潤潛延一西岸悉く湿地にして沼澤の類多しと云此他の河流あり大抵歩渡なるべき者の多くは其舟渡なるべき者をしらずしるべ

東トウフツ○トンナイチヤ○ナイフツ○ナイフツプ○タライカ（以上五句皆地名）シーと合てムつとんに西をライチシカ○ベシトリイ○ナヤシ（以上三句皆地名）の三河に限ると云

一林蔵至る所にして島中に大湖と称すべきものはトンナイチヤ湖タライカ湖なりトンナイチヤ湖は其周迴凡十二三里許にして東西に長く南北に狹く其四方丘岡是を圍ふ嶼其内に散在して海峡と云るに遠からざるとい云ども其水鹽氣なし産する處の魚類は雜物のごとくして品題なべて物なく此湖に至るの道はシラヌシトに東三十里餘にして千へ千ヤニ○ホラツフニと称する（二地名）二處にして舟を陸上ふえきホントウと称する小湖に至りホロトフと称する湖中を過ぎ行くこと凡二里に近くてトウキタイチペシシヤニと云る川口に至て舟を陸にあきて凡廿七八町を経



奥地
減潮圖

ムしバニマムクシ一ツと称する小川より至る又舟行をもてトン
ナイチヤ湖より達し
一タライカ湖を周廻凡十一里ありて東西より長く南北より狹く
海岸を去ること僅より六七町四方平原ありて丘岡の類なれく
湖中小嶼西三あるのみにあらずして潮満ちる一大湖なり水浅く
ときとして少しく鹽氣を帶し産するところの魚類比月魚鮒多し
一シラヌシを去ること凡百六七拾里なる西海岸よりウヤクト
ウと称する所あり是より奥地を海岸総て河地ありて
地圖中小載しるすがごとく沼湖多きこと数(得)つくすべ
一此邊より奥地は河水悉く急流のもれるなく総て遲流ありて
濁水なり其外悉く落葉の氣味を存して水味殊より悪し
一此邊より奥地海面総て平ありて激浪なり然りとも其
地東韃の地方を隔るあり其間僅より十里七八里近き所より至
りてハ二三里なる迫所なれば中流潮路ありて河水の鳴流
なるごとし
一迫處の内何ぞの所も減潮なるあり甚だ其時より至りてハ
海面凡一里餘陸地となり其眺望の景實小日本地の見ざれ
ども為ありて其色青黄なる水草一面小地上小点沢蒼苑と
なる海水を見び其形奇なりて圖寫なるに難し
一此邊汐時なる　本邦より異なる林藏戊辰の夏六月廿一日十

ツコ崎ニ至アリ小其晝八時分の滿潮減ジ去て後其夜五時分又滿潮ハと云

一ラツカ崎トウタムラヲー地名ニ至る迫處のうちは冬月ニ至アて悉く氷海となり島夷往行とて其上を往返し或ハ犬とて艙を挽しムとい〳〵ども其氷碎破とて隕沒とてるとあり

一此邊よりて奥地は終歲地中ニ雪あると云其寒地なるを

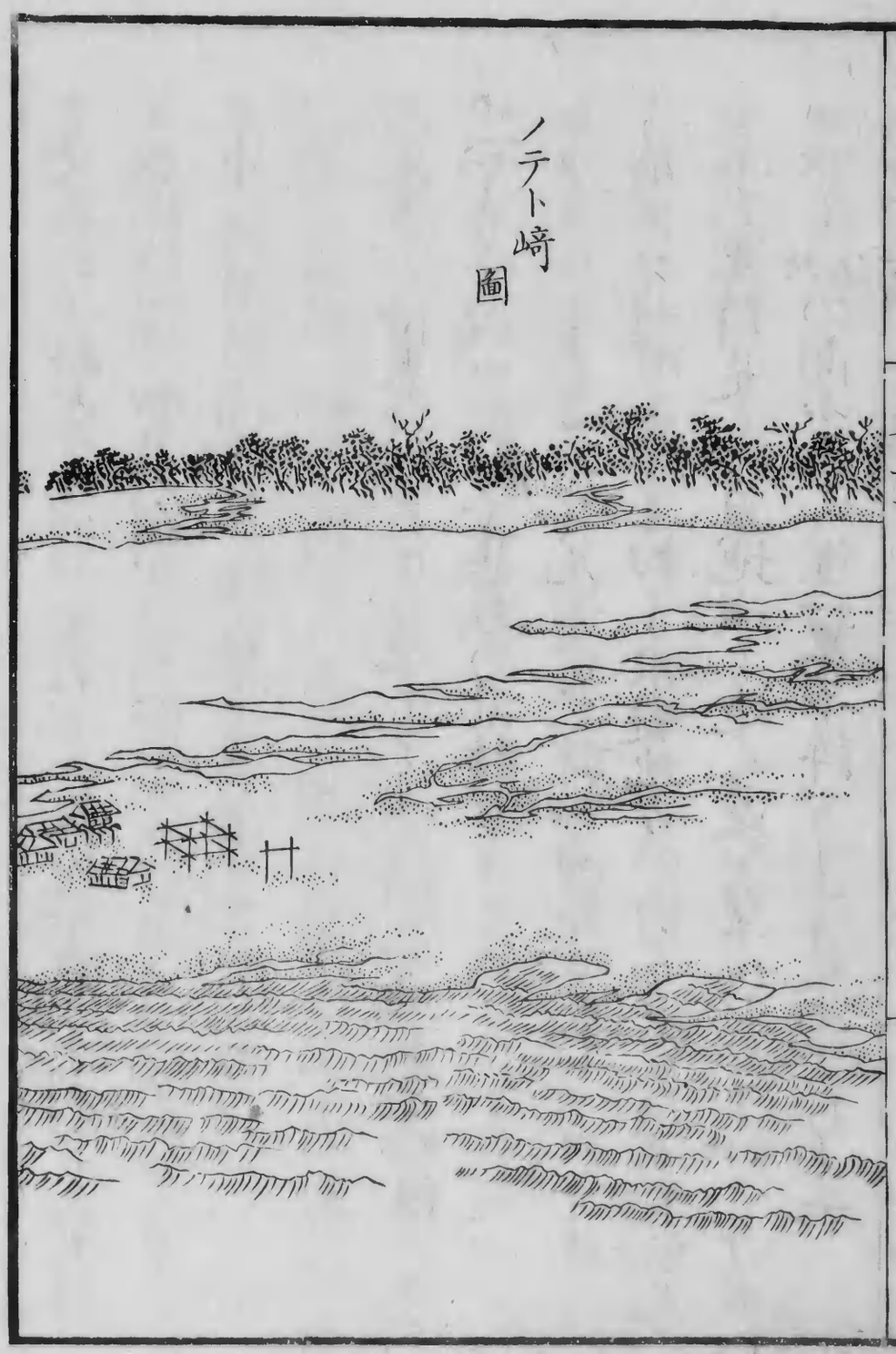
とたゞ

一南方初島の間ハ十月須よりて雪海上ニ降アて積アて潮水総て泥水の如く波ニ隨て海岸ニ打ッて凍合して大なる巖石の如し巖冬の須ニ至てて洋中よりて大氷流き来アて又其上ニ粘とて凍合たれども風の趣きるよりて又大洋ニ放流ハ一体初島の内て自然ニ氷海となるとて絶てなし只東海岸所〻の灣中時〻稀ニ凍合てるとあり

一此島西海岸ハ初冬の須よりて初春の須ニ至るの間安子の風多く仲春ハ須よりハ衣よりて未ハ間の風多く吹續くといへども終歲中ハ〻暴烈の風稀なりと云

一シラヌシを云るとて凡七十里許西海岸ニウレヨロヤ〻称てる所あアて此所ニて初て東韃地方の山を遠望ハ其直徑凡廿五六里許是より奥地漸く近く見を望ヲワゲー地名ニ向ニ至て僅一里半許ニて是を望む云

ノテト崎圖



一島夷東韃小舡ニ渡口七處あり シラヌシを去るおよそ凡百七十里許なる處よりノテトと称する崎あり スメレンクル夷称してテワカトいふ 此處よりして東韃地方カムカタと称する所ニ渡海し其間凡九里の餘を隔つとなれども海上穏ふして大抵難変なる事なり此所よりナツコ小至る海路ハ潮時を熟察して舟を出すべし ハるゝあり難し前ふいふ如く此邊減潮の時ハ到てハ海上一里の餘陸地となり其陸地ハ多くハ舟をやるべからず故ニ満潮の時ハ海岸小添て行るべし然ル潮時を考認て岸を去ること半里許小して舟をやると云

一ノテトの次なる者をナツコといふ スメレンクル夷ラツコと称し 其間相去ること凡五里許此處よりして東韃カムカタ小至るの海路僅ニ四里許を隔つ其間大抵穏なれども波浪あるく殊ニ減潮の候上文のごとくなれども出崎なれ得ざれバ舟を出しがたく而して魚類多く無數ふして糧を得るふ乏しき事ハ不便の地なれども島夷大抵ノテトを以て渡海の所となし然れども風順あるく又ハ冬月ニ至て海上怒濤多き時ハ其海路の近きを便として此崎より渡海し

一ナツコの次なる者をワケーと称し其相去ること凡ハ里許

通船の事ハノテトヨロナツコヨリ至るゞ如く能潮時と考へざれバ至るゝと能ハず此處よりて東韃ヲツタカバーハと称する處ハ渡る其海路稍ハ一里餘ハ〜て海上穏なりとゝ以ゝ迫處ハ中流潮路あゝて急河のごとく風候ハ依て逆浪舟と沒する事あゝと云

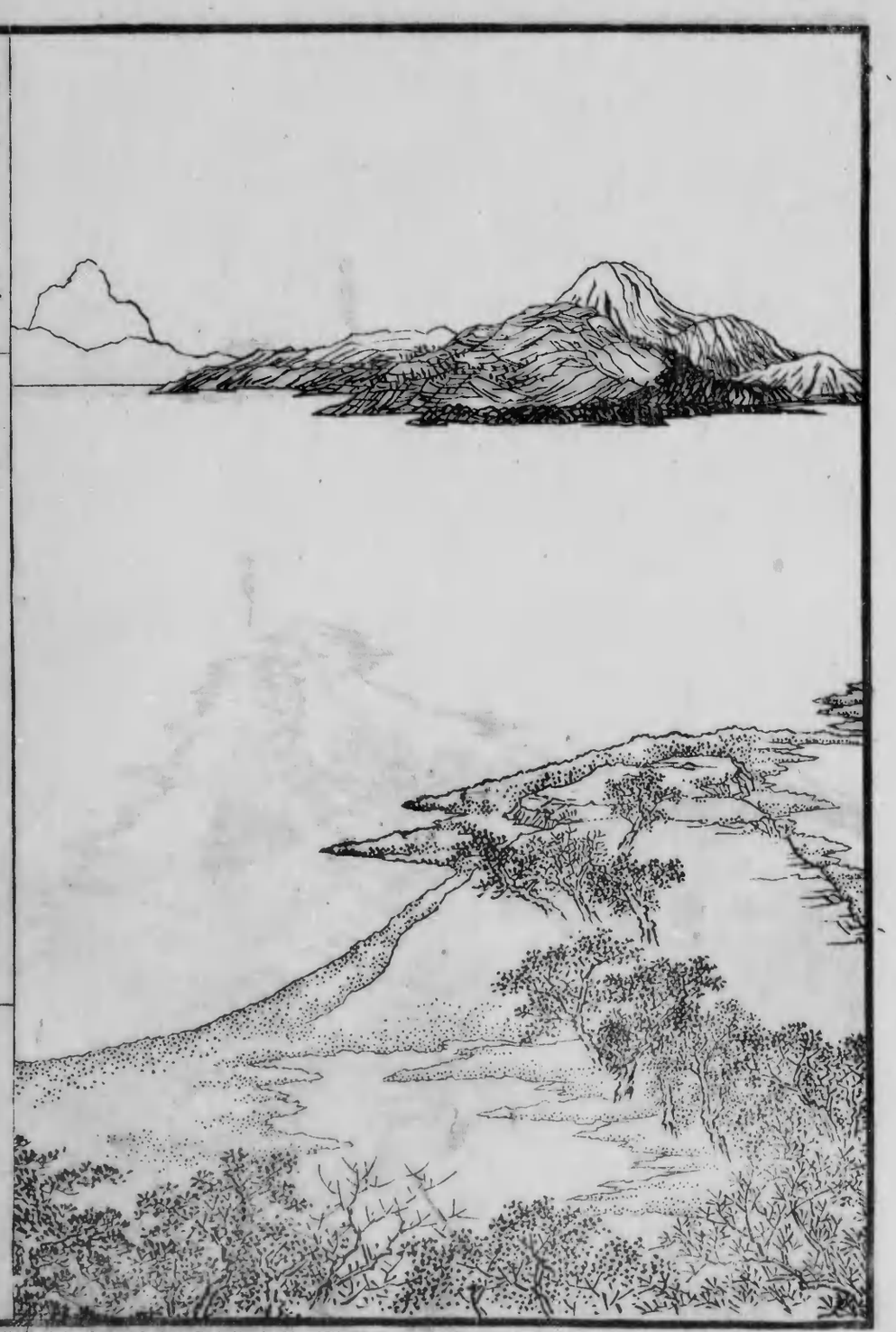
一ワケーの次なるをボコベーと称ハ此處よりて東韃ワシフニゝ〜ハ所ハ渡海ハ其海路ハ僅ハ一里半許と隔て中流潮路もまゝワケーの如し

一ボコベーの次なる者をビロワカセイと称ハボコベーと云るゝて凡四里許此所よりて東韃の地方ハ傍ひなる小岐ハ添ひてワルケーと称する所ハ渡るゝ有とゝ〜ゝ海路凡十里許と隔て且潮時の候又波濤の起激あゝて船路穏なるゝ

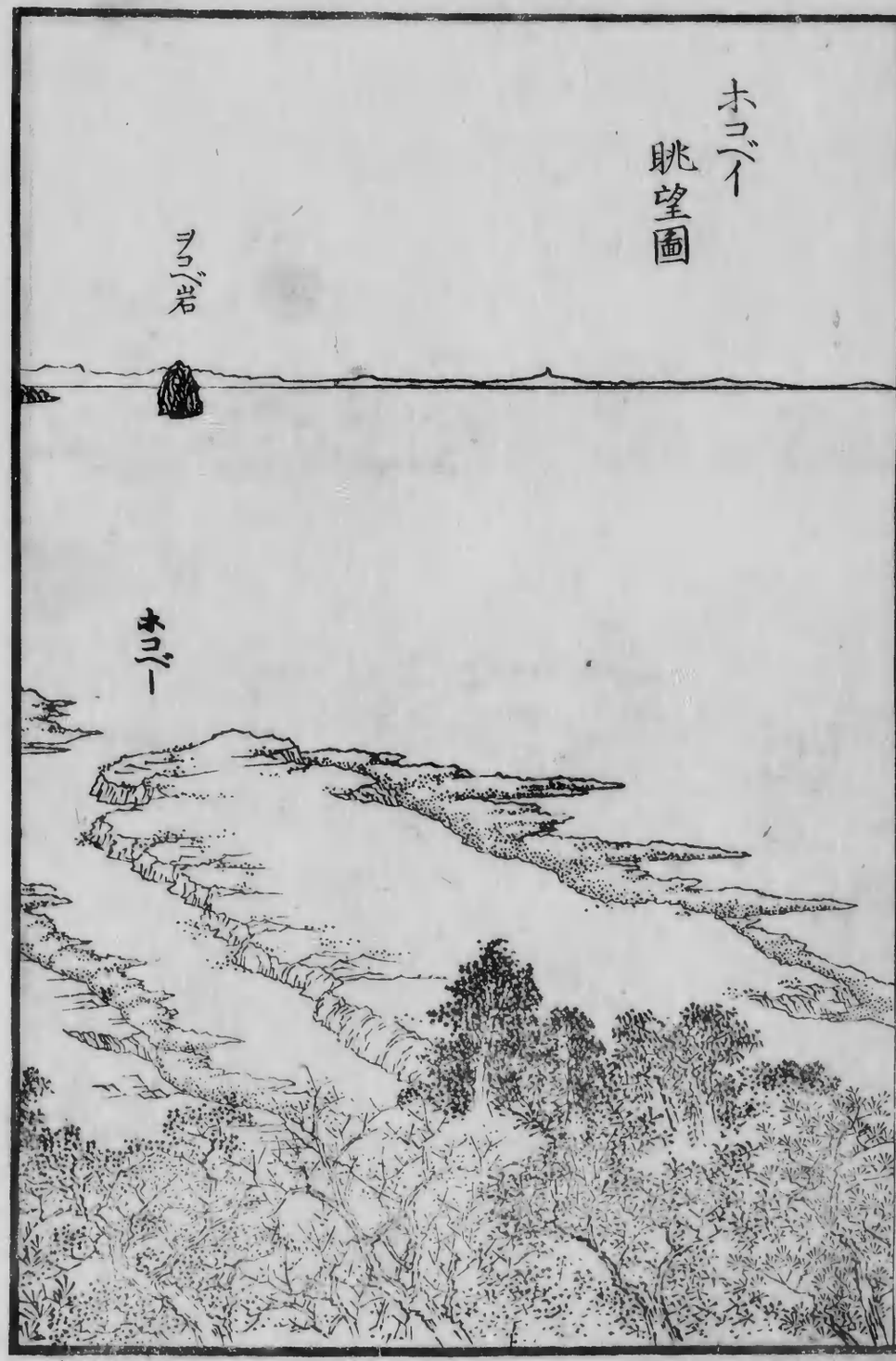
一ワカセイの次なる處をイシラヲーとゝ其間相去ること凡十五ハ里許是よりて東韃地方ブイロハ渡海ハ海路凡四里餘中流の潮路殊ハ急激なるハ此所よりてハ漸ゝ北洋ハ向ひ此島韃地の間里を追ゝ相ゝ故ハ波濤も亦激起ること多く渡海艱難なりとゝ

一イシラヲーの次なる所をタムラヲーと云イシラヲーと去ること凡五里許なゝ（此所林蔵ハらざる所ハ　此處よりてれぞその詳をしらば）東韃地方ラカタとゝ所ハ渡る海路凡八里餘あゝて北海

ワケー
眺望圖



ホコベイ
眺望圖



イトロス
イシラター

ラカタ
ナニラー

ヒロメーツフ
ハキーメツラ
チヨロムタカツフ
ヤカセイ

マチウエラカ
ヒウエラカ

に波濤又激入るとれども猶イシラヲーよりブイロに至るの如く難事多しと云是スメレンクル夷の演話する處なり

一凡地勢を概論したるむかしの前の數條にてはきわ他海底の淺深泊湾の難易詳載せんがあらんぐらんとおもへども其事に錯雜たる為に此巻に緊論を出して後日沿海圖說にて

ものを編て其委曲を陳載たくべしと云爾

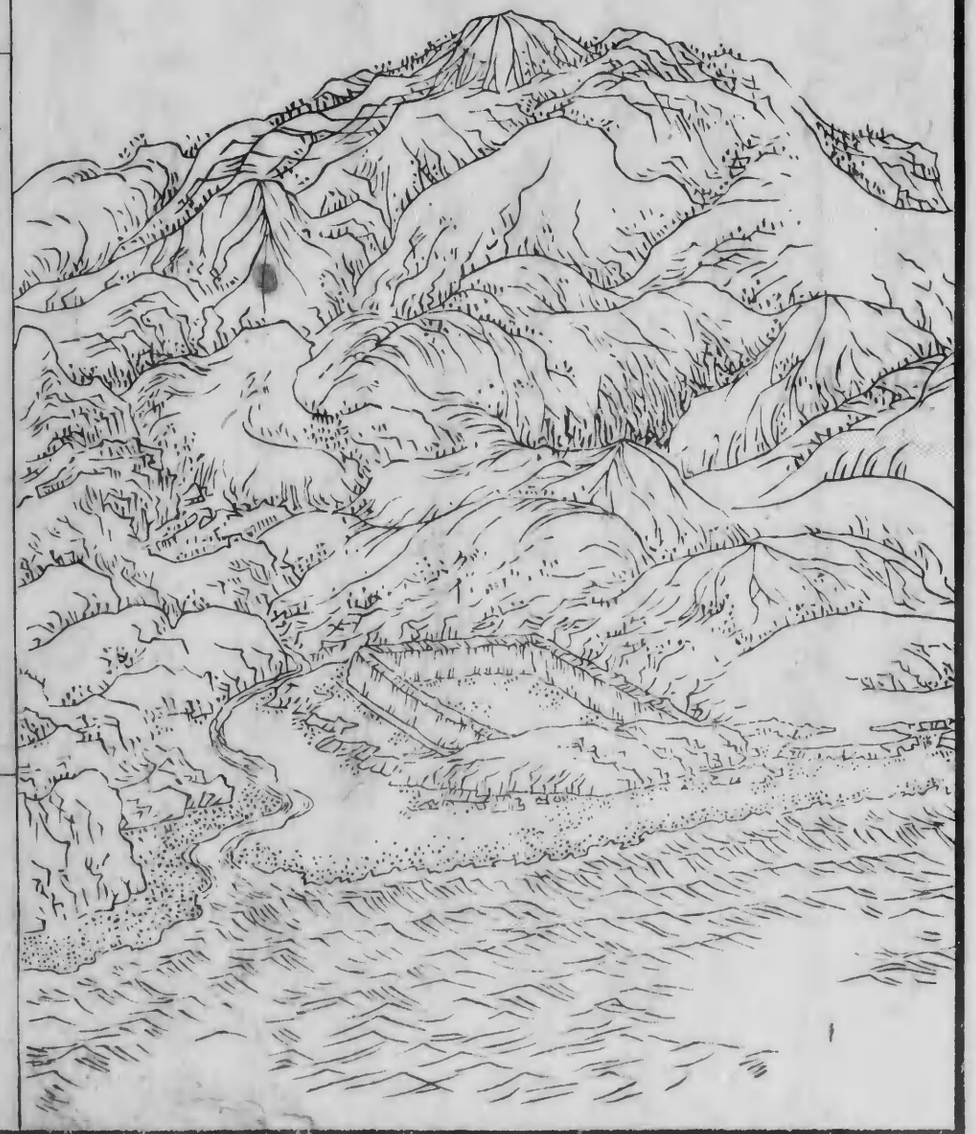
附記

一シラヌシを云るに凡一里許東海岸にコヽハウと称する所あり其所に塔の舊址あり夷言チヤシと称し其狀圖のごとく三面に堤を築き前一方堤を設くべし三方の堤下悉く陥

を穿つ何れの時又何者の造る所にや年月塔主とも知るべからざるに似たり

東をシレトコ岬（奥地にある者）西を十二ヲーよりの奥地東北の海岸凡百四五十里の間林藏に至て浮ざるべし故に其地理夷然詳盡たることあるべきとも衆夷の演話たる所大抵其概を思ひたるのみなる足れて故に其事を集めて此所に附記し

一シレトロよりの奥地凡二十里許にてクキヲーと称する所あり此間の海岸は総て岩岸壁立にして船をよせべき所なき故に此間の地理は諸夷とゝくども辨知たるものなし夫よ



古塔圖

て奥地ヨルン○メルコアーノー○ヌイ○ヒロヲー○ラタヲー○一カチヨムヲー○シヤエ○ヒレントーなと称する所数十里の間悉くヲロッコ○スメレンクル夷の部落にて其居夷は許多なるなと堅知なくして其地理は大抵南方トンナイチヤよりシレトコに至る海岸のごとく入湾にて沙地なり此邊に沼湖の多きなと西海岸ノテトの奥地の如しと云此島の居夷も亦往昔満州に入貢せしふ近代絶て入貢しるなきなりと語りし

一西海岸イシラヲートより凡二十里許北地にカウトと称する所あり是この島極北の地にして西海岸の地境此所にきわ其東韃地と相隔るの間は大抵ノテトより南方イトイれ間にして韃地と望むべきなり此邊総てマンコー河口とうくる處なれは潮水淡薄にして其増減し北海より進退しるなれとなれは鱒鮭雑魚の類も多く群集し地夷と養ふふ足りて故に此島住夷多く凡三十四五落あって皆スメレンクル○ヲロッコ夷の居域なり其内クムラヲースタムラヲー○カウトの三處に夷家殊に多く大抵各落数十屋あり亦満州の命なる所ハラタ○カーシンタなど称する酋長のもとに居して時く満州に入貢し冬月海面凍合の候に至れハ山旦夷も来居なて交易をなすといひしと云

一カウトよりて東海岸凡二十里許ゆきてヒレントーに至る其間一大岬ありて地形大抵タライカよりクキヲーに至る海岸のだ〳〵く岩崖石磯多く且東大洋とうくる所なれば怒濤いつも高激ありて夷船の往返絶てなし得ざる所なり只仲春より初夏の間北海より碎冰の流れ出ると待て地夷舟と出し冰上出遊の水豹を獵し得るなり多し只此時のみ海上時〻平坦なることいつとしひと云

一此島の住夷ハ大抵海岸のみに居をなして山居の者なし只奥地よりムてトモーと称する川あり島中一二巨流なり其両岸土著の夷落凡廿四五所ありて其族ハ悉くヲロツコ○スメレンクル夷ゆへて産業も亦異なるなしなく山獵をして得る所〻ころの諸獸皮ハ悉く山且夷ハ交易しトモー川ハ漁をして鱒鮭雑魚を得て食糧となし此トモー川ハ源シー川源のほとりより發して東北に流るなり數十里東北海岸ヌイヤ称する所の湖中ハ入て東海に流る其水遲流ゆへて急逆の所少〻也バ通船敗没の愁なく且河邊山獵も多く河中の産魚も亦住夷を養ふに足り故に東西海岸の住夷結婚通税をする者少なく〻時〻其處に往返するなり東〻夕ライカ　シー邊より川を上りて舟行し積雪凍合の節ハ及てハ艝を裝し犬に曳せ河溪冰上を渡りて其所に至るに西

はイトイ　ムカツチヨンといふ両處より往返して僅ふ路痕と存ずれば通行難変なりとひとし云

以上四條林藏夷話ふきく所なれど齟齬の事も亦多き成下とふ〳〵ども唯後考の便れ為ふ爰ふ志ふ

産物部

一草の類異種の物と見ゆ只雑草のゝ多くして花草の類更ふ愛翫ふべきものなし

一菅の類絶て産とる物なし

一竹ハ小竹とふ〳〵ども産とる所なく只シラヌシの邊箬と生もるみ

一此島多きものゝ木なりふる所叢生せざる處なし然ども只雑木のゝ多くして大木良村と称ちべき物なし只エゾ松。トド。シユンクの三種を以良村となん

一地勢中ふ載ふるごとく山火樹木を焼はらひとふ〳〵ども其後凡四五年を経ハバトド。蝦夷松の類ハゝ其跡ハ發生ゝて他の雑木と産せば其繁茂の状直幹競ひ立て實ふ竹林の如しと云此他草木ともて蝦夷島の産とる所のごとしとふ〳〵ども其種類ハ大ふ少しと云

一五金の産稀て見聞とる所なしとふ〳〵ども布ふ其氣を見る丈とあれば蓋し出産の地あるべし

トナカイ圖

リキンカモイ圖

一此島は硫黄を産する山にして故に林藏經る所総て焼山温泉あるなり

一石品多く異なる者を見ず只アテケーまつイドイ共地名よりの海岸多く石膏を産す

一鳥は類に蝦夷島に異る者を見ず奥地異信夷の部落に入て夏月鴈多く来て子を産ず又其羽墜失して飛ぶこと能はざるものあり沼湖の内に游ぶ夷等犬を以て是を咬獲(えと)せしめ又棹を以て是を打或て石を投(なげ)て是を得ると云

一獣は蝦夷島に比所の物二種あり其一をトナカイと称し其全形鹿の如くなる圖のごとく其面目は馬に似たり其

角枝多く突たつとも柔軟ふして物を傷らべ悉く毛皮を蒙る其尾を牛のごとくみして細し此島南方の地を山ふ居をて夷等是を獵し皮肉を取る奥地ヲロツコ夷ゐるをていは是を養ひて業とする其獸たるや懦弱みして能く人ふ馴服ス

夜譚隨録云似麋而大者曰堪達爾汗其即麋也前昂後低多力毛粗而長為裘暖角扁而厚為決良人以其皮可裘而角可決也驟馬濤逐而獵之獲利厚

其一をリキンカモイと称ス其形牝鹿のごとくみして牙にのう大さ犬の如く黒色なり夷等是を獵し皮を取て肉を喰ふ

一貂南方の産する所ハ其色黄ふして下品なり奥地ゆるるふ隨て毛色黒し是を上品とス滿州夷是を悦ふ

池北偶談曰本朝極貴玄狐次貂次猞猁猻玄狐惟王公以上始得服

一東もタライカ西をノテトの邊より奥地を海獸殊ふ多し春分鯡漁の候タライカの海上獸ハ波上ふ出沒するをふ鳧鷗の羣集するをふ

一海魚の類総て蝦夷島の産する物のごとし只西海岸ヨリアルコイ○ハチユツチヱツフと称する小魚あり其狀皆鱸魚のごとくふして小なる者大さ七八寸なる者をアルコイと称

して三四寸なるものをとり、千ユツ千ユツプと名づく東都の俚言せいだ〳〵称とる者のごとく暮春の須海岸に群集ひるたと殊に影し

一山澗の石ある處ゆゑ何出の所し鰻多し其形狀の怪しきと以て夷等恐怖して是を喰せず

一シラヌシトカクシユンコタンなるの間暮春より仲夏の間海上鯨魚多し鯡漁終て後其所在とゝ〳〵

一タライカの湖中鮒多く産ひ其大さ尺餘のもの多し其形狀日本地の物と小異なりと云まる此處の海中海扇多し

一トウフツの湾ウシホトの湾多く牡蠣を産ひ

一奥地のノテトよりワケーの邊小汇目魚多し其大さ僅二三寸を限とひ種類の異るもの幾品あるよ〳〵を辨知しゝ〳〵地夷網を以て是を獲るふ只是のみを得て他魚あることなし

一チヤカドイと称とる所より奥地異種の鮭魚を産ひ其肉色殊ふして赤し常の鮭と異なり

一蟲の類異形の者を見ひ大抵蝦夷島にある處の如し蚊虻の類甚多きよを蝦夷島より越たりと云

北蝦夷圖說卷之二終

北斗妙見圖卷之二

明治